

令和5年度 京都市小学校道德教育研究会

活動計画

1. 活動目標

- ・ 令和9年度全国大会開催に向けての組織力・実践力の向上
- ・ 京都市小学校道德教育研究会 研究大会の実現
- ・ 授業研究の充実（育成・低・中・高学年部会の充実）

【目標設定の理由】

本研究会は、道德の授業研究を中心に研究会活動を進めてきた。しかしながら、ここ 3 年間は新型コロナウイルス感染拡大のため集合しての研修を行うことができず、部会ごとの授業研究も十分に行うことができなかった。

また、平成30年度には近畿大会を開催し、令和元年度には京都市小学校道德教育研究会研究大会を行うなど精力的に研究会活動を進めてきたが、ここ 3 年間はそれを研究大会を開催することもかなわなかった。

それでも、共通の研究テーマを元に個人研究を進め、その成果を研究冊子の中にまとめたり、今までに研究会活動の中で学んだことや多くの実践を「道德だより」として発信したりしてきた。どのような状況の中でも、研究会のメンバーのつながりを大切にしながら今できる事は何かを考えながら、地道に研究活動を続けてきた。そして昨年度には授業を伴った研究活動をほとんどの部会で行うことができ、令和 5 年度の研究に繋げていくことができた。

京都市の各学校では、道德科の教科書ができ、年間 35 時間の道德の授業を行うこと、道德の評価をしていくことが当たり前に実践されるようになった。その中で子どもの心に届く授業、子ども達が自分自身の生き方を見つめ直すことができる授業を多くの教員が実践できるように「道德科の授業スタイル」や「その取り組みの意図」を公開・発信していくことに大きな意味があると考えている。

そこで令和 5 年度は、各部会での授業研究を充実させ京都市小学校道德教育研究大会を行うことを一つの大きな目標としていきたい。また、令和 9 年度には全国小学校道德教育研究大会が京都市で行われることになっており、その授業づくりについての京都市の考え方を全国に向けて発信していくことになる。道德科では「人としてのより良い在り方」「自分の生き方を自分で決めていくこと」を考えることを引き続き大事にしていくことに変わりはない。新たな課題や、一人一人の GIGA 端末を道德の授業でどのように活用していくかなど新たな研究課題も出てきており、京都市小学校道德教育研究会に次の使命が課せられている。

研究会員の実践力を高め、全国大会を運営できる力量をつけることが、研究会、会員の所属校、さらには全市にその成果を還元していくことにつながると考え、この目標を設定した。

2. 今年度のおもな活動内容

今年度は、感染対策を行いながら持続可能な研究会活動の形を見つけ確立させていく。役員会や授業研究については参集を基本としながら、場合によってはオンライン参加などをうまく組み合わせ確実に実践を積み重ねていけるようにしていく。

どの活動でも「つながり」が感じられる研究活動を進めていくことで、研究会員はもとより、多くの指導者が支え合えあえるようにしていく。一人一人が自分の出来ることを考え、積極的に研究会活動に参加していけるようにしていきたい。今まで小学校道徳教育研究会として大事に行ってきた活動を復活できることはし、新しい形も柔軟に取入れ発展させていくことができるよう研究会活動を行っていくものとする。

研究主題

よりよい生き方を求め、自ら気づき、考え、行動する子の育成を目指した

「しなやかな道徳教育」

～自己の生き方についての考えを深める学習を通して～

【主題設定の理由】

本研究会では、今年度も研究主題を

『よりよい生き方を求め、自ら気づき、考え、行動する子の育成を目指した“しなやかな道徳教育”』、～自己の生き方についての考えを深める学習を通して～

として、これからの道徳教育が果たす大きな役割への期待に応えられるように、また、そのための改善の研究に取り組むことにした。

本研究会の考える“しなやかな道徳教育”とは、柔軟性があり、かつ、決して折れない心の芯がある道徳性を育てることである。この“しなやかな道徳教育”を進めるにあたっては、新学習指導要領で定められている「特別の教科 道徳」の目標に則り、道徳的諸価値についての理解を基に「自己を見つめる」「物事を多面的・多角的に考える」「自己の生き方についての考えを深める」学習を行う必要がある。

これら3つの学習過程のうち、今年度も「自己の生き方についての考えを深める」を重点的に取り上げる。この「自己の生き方についての考えを深める」については、令和2年度より実施されている「生き方探究パスポート」（京都市版 キャリア・パスポート）の取組にも関連が深いものと考えている。

先が見えない、予測困難な社会をどのように生きていくか、自分なりにどのようにして道徳性を発揮していくのか考えることは、大人だけに限らず、未来を力強く生き抜く子どもたちにも求められている。そのような子どもたちに、道徳科及び道徳教育を通してどのような力を付けていくことができるのか、研究会活動として探究していきたいと考える。

3. 研究組織と業務・役割

	研究部	研修部	庶務部	広報部
主な 業務	授業づくりの研究 ・京都市研究大会 ・授業力 up 研修会 部会の実践発表 ・授業研究等 各部会ごとに計画	研修の企画・運営 ・道楽会（授業力 up 研修会） 部会の実践発表計画 年2回 ・新人勉強会 年3回 メンバー固定	企画・連絡・調整 ・役員会運営 ・京都研究大会運営 ・フォルダ管理 ・会費の管理・運用 ・全小道・近小道 大会参加集約等	通信の発行 ・HP ・道徳だよりの発行 ・道徳研究会報 ・全小道・近小道 大会要項配布等
詳細 及び 変更点	部会は4つ 低・中・高・育部会 令和5年度は、 基本集合研修とする。 チームス、メール等を使 っての情報交換	令和5年度は ・道楽会（授業力 up 研修会）を行う。 若手向けの内容 道徳教育の内容 （キャリア教育） ・新人勉強会を行う。	会計係を置く ・会費運用 ・懇親会 計画運営 庶務係を置く ・会員募集・連絡 ・印刷・全市配付等	通信発行（取材・作 成）を複数人で分担 道徳の授業実践を行 った研究会員に原稿 依頼を行う。 HP の充実 広報部教頭への原稿 依頼を行う。
指導 助言	各部会担当校長	小林 宏樹 副会長 鎌田 賢二 副会長	栗田 佳子 副会長 内野 英教 教頭	綾野 美晴 副会長 近藤 清美 副会長
相談役	各部会担当教頭	小林 宏樹 副会長 鎌田 賢二 副会長	齋藤 正幸 教頭 佐津 高志 教頭 三上 美香 教頭	佐久間教頭 居林晃教頭 田野教頭 居林良教頭 竹中教頭
全国 大会に 向けて つけたい おもな力	いつでも・だれでも どんな学年の授業も 公開できる力 授業分析力 指導助言力	いつでも・だれでも どんな内容でも 実践発表できる力 講師としての指導力 企画・運営力	組織運営力 事務処理力 自ら役割を担う力	情報収集力 情報発信力 情報をまとめる力 分かりやすく伝える力

【研究主題に基づいた各部の取組】

〔研究部〕

今年度の研究テーマ

「（道徳的価値の理解をもとに）自己の生き方についての考えを深める授業づくり」

昨年度に引き続き、この研究テーマに沿った道徳科の授業を育成・低・中・高学年の四部会を設定し、授業を伴った研究部会を充実・発展させ、より多くの研究会員が研鑽を積み、授業力を高めていけるようにする。基本的に部会は参集とし、参加が難しい時はチームスを活用し授業研究を進める。記録をとりまとめ、全会員で共有、交流する。部会での実践は「道楽会（授業力 up 研修会）」で実践発表したり、部会での活動の様子や学びを道徳だよりとして発行したりしていけるようにする。多くの実践や評価（成果と課題）を共有していくことで全会員のみならず、各学校で活用されるようにしていく。

〔研修部〕

各校における道徳教育や道徳科の授業がより充実するような題材（ネタ）を紹介し、それに則った取組を会員が個人実践したものを「道楽会（授業力 up 研修会）」で実践発表できるようにする。その企画運営を研修部が担う。自己の授業実践を発表する場をできるだけ多くの会員に経験させることで 個々の発信力等の力量を高める。

また、若年教員を対象とし、「新人勉強会」を開催する。同一メンバー対象 年 3 回

〔庶務部〕

役員をはじめとする会員の連絡・調整にあたる。連絡は、メールが主となるが、フォルダ管理を行い、それを広報することで、情報を共有・活用しやすくする。

令和5年度の役員会等は、参集を基本とするがオンラインでも参加できる状況を作って役員会等開催の運営に中心となってあたる。

また、研究会費の管理・運用を行う。会費の徴収については庶務部から連絡を行う。

京都市教育委員会委託金（図書費）の運用を行う。

全小道、近小道参加者の取りまとめ、大会申込等を行う。

〔広報部〕

研究部及び研修部でとりまとめた実践記録の中からピックアップしたものを、「通信」として発行したり、授業づくりのポイントや教育技術を紹介したりする。（HP掲載）

道徳を学ぶ上で 必要な情報を提供する広報誌を作成する。

個人の実践発表等も研究会員に広報し、共有していく（令和5年度は経験豊かな教頭先生方を中心に 道徳だよりの発行を進める）。

4. 各部活動計画表 別紙